

平成30年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

魚種	資源状態		ABC(万トン)				TAC(万トン)				備考
	水準	動向	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年(案)	
するめいか	【中期的管理方針】 本資源は減少傾向にあるが、これは海洋環境の変化に伴う再生産環境の悪化によると考えられ、短期的には減少傾向を緩和し、中期的には環境が改善された場合に資源を速やかに増大できるよう親魚量を確保することを基本方向とする。 ただし、本資源は、大韓民国等と我が国の水域にまたがって分布し、外国漁船によっても採捕が行われており我が国のみでの管理では限界があることから、関係国との協調した管理に向けた取組が行えるよう努めつつ、管理を行うものとする。		【30年TAC設定の考え方】 冬季発生系群については、ベースとするABCを漁獲シナリオ「親魚量の増大」のLimit(3.1万トン)、秋季発生系群については、「親魚量の維持」のLimit(12.9万トン)とし、これらの合計値16万トンから、過去10年のうち、全漁獲量に対する日本EEZ内の漁獲割合の最大値(2007年、60.1%)を乗じた97,000トンとTAC数量とする。								
	低位	減少	19.4	21.5	6.9	3.1	42.5	25.6	13.6	9.7	
	中位	減少	40.2	20.5	15.6	12.9					
合計			59.6 (25.6)	42.0 (25.6)	22.5 (13.6)	16.0 (9.7)					

注) 下段()書きについては、日本EEZの値。

【資源評価結果】

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ(注)	ABC(万トン)		参考	
	水準	動向			2017年親魚量	Blimit		
冬季発生系群	低位	減少	< Blim	親魚量の増大(B/Blimit × Fmed) (Frec)	Target	1.8	6.5万トン (2.1億尾)	親魚量 16.2万トン (5.2億尾)
				親魚量の増大(5年でBlimitへ回復)(Frec5yr)	Limit	3.1		
秋季発生系群	中位	減少	> Blim	現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	Target	6.3	47.8万トン (17.1億尾)	親魚量 40.5万トン (14.5億尾)
				親魚量の維持(Fmed)	Limit	12.9		

注) 中期的管理方針に合致するシナリオを記載。

平成30年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)の配分(案)

第1種 特定海洋生物資源	漁獲可能量 (トン)
するめいか	97,000



大臣管理分			
指定漁業の種類	数量(トン)	操業区域	数量(トン)
沖合底びき網漁業	14,200	/	
大中型まき網漁業	4,400		
中型いか釣り漁業	17,600		
小型するめいか釣り漁業	24,000		



知事管理分(数量配分県のみ)		備考
都道府県名	数量(トン)	
数量配分県 無し		北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、静岡県、三重県、和歌山県、鳥取県、島根県、高知県、福岡県及び長崎県については、若干とする。